



# AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局 鎌倉市大船 1709-18 FAX 0467-44-5876

## 2014年新年親睦パーティー



雪の降りしきる2月8日(土) 定刻通り午後1時30分より波止場会館1階多目的ホールで今年初の協会主要行事の一つである新年親睦パーティーは始まった。早朝より降り始めた雪にもかかわらず、三々五々参加者は集まってくれました。

山崎会長の乾杯の音頭に引き続きプロのミュージシャン二人が組むデュエットバンド“ボア・ソルチ”によるボサノバ演奏が始まり、それをきっかけにテーブルの上に並べられたオードブルや参加者差し入れの食べ物やお菓子類に皆さんが手を出し、和気藹々のうちに瞬く間に30分は経ちラテンミュージックをボサノバ風にアレンジした曲を歌ってくれたボア・ソルチの第一回目の演奏は終わった。次に恒例のさくら合唱団による合唱が始まった。栗山先生指揮の下、先生が歌詞を訳しながら ¡Viva San Fermín!、Quiereme mucho、¡QUE VIVA ESPAÑA!と3曲続けて歌って会場の雰囲気は盛り上がった。



次に、これまた去年の新年会から始めたビンゴゲームに参加者の目のご自分の持っているカードの数字に釘づけになり あちらこちらでビンゴの声が上がり粗品を受取る方がいると思えばご自分が持っているカードがもう一つ数字が出てくれればビンゴと言えるのにと一喜一憂した光景が垣間見られた。

そうこうしているうちにも雪はますます荒々しく強い風を伴って吹き荒れてきた。午前中はさほど積もっていなかった道路も完全に見えなくなり、参加された方々が無事帰宅できるように予定を早めバンド“ボア・ソルチ”によるボサノバの代表曲 “マシュケナダ”等を演奏し始め終わった時点でさくら合唱団と参加者全員による“Clavelitos”をいつものように歌って3時半過ぎにお開きとなった。

大変な新年親睦パーティーとなってしまったが、家路を急ぐ参加者皆様が雪に脚を取られ転んだり滑ったりしないか、強い風に持っている傘をダメにしたりしまったりしないようにと祈りつつ閉会した。こんな悪天候にもかかわらずお出掛けいただいた方に感謝しております。ありがとうございました。

(石井加奈弘)



## ●スペイン語クラス

今回は 1 月に行われました二つの「特別講座」を受講された方々のご感想をご紹介します。特別講座は1)「嬉し楽しボランティアガイド」講師：渡邊昭夫氏 2)「コロンビア文学のパノラマ」講師：Sandra Morales Muñoz さんの二つでした。

### クラス特別講座「嬉し楽しボランティアガイド」目指せ東京オリンピック

1月29日、初めてスペイン語教室主催で、特別講座が開催されました。講師には、横浜スペイン協会会員の渡邊昭夫さんをお迎えし「嬉し楽しボランティアガイド」と題した、楽しいお話を伺いました。渡邊さんは、スペイン語歴は20世紀からという、我々の大先輩です。2012年から、TFG(Tokyo Free Guide)というNPO法人に所属して、日本に来たスペイン語圏の方々に無料で東京近郊のガイドをされています。その数たるや、毎月3回以上、今までに121名の方



を案内されました。主にガイドされているのは、東京下町(浅草、上野他)、横浜、鎌倉など、私たちも知らない珍しい場所や、訪問者を楽しませるお食事どころ、ご趣味の素晴らしい写真ともども、ユーモアタップリの話口で、相手を思いやるおもてなしの気持ちがあふれていました。夏の暑い盛りに何度もガイドをされ、お家に帰られた途端倒れてしまうというハードなガイドをこなしてこられました。今までで一番辛かったことは、ガイドした方々とお別れだけだったとおっしゃる。こんな渡邊さんにガイド頂いた方々は幸運だなどつくづく感じました。ボランティアガイドの目的は、学び、楽しみながら世界に日本の良さをPRすること。ガイド中は自分の持っているスペイン語力で勝負しなければならないので、改めてスペイン語に取り組んでいらっしゃるとのこと。

「ゆでガエル」(カエルを水の中に入れて徐々に温めると、カエルは気持ちよく泳いでだんだん温まってきても気付かず、そのうちに茹で上がって命を落としてしまう。環境の変化に鈍感になり、マンネリ化してしまうことへの警句)の挑戦とおっしゃられていましたが、確かに氏は「ゆでガエル」から脱却されています。我々へのメッセージとして、2020年のオリンピックまでには、ぜひ、他にはないスペイン語ガイド、選んでもらえるようなガイドになるように、後に続いてほしいとおっしゃられていました。私にとっては、遠い、遠い目標ですが(もちろん会員の中には、今すぐに後に続けられる方もたくさんいらっしゃるでしょうが)、頑張ってみようかなという気持ちになりました。渡邊さんが強調されていたHospitalidad(お・も・て・な・し)の気持ちを忘れずに、志あらたに、スペイン語頑張りましょう!!最後に、渡邊さん撮影による写真入りポストカードを受講者全員に頂きました。



¡¡Muchas gracias, Sr. Watanabe!!

➤講演を終えて

(古賀恵子)



## 新聞・雑誌を読む会 特別講座「コロンビア文学のパノラマ」

昨年、「新聞・雑誌を読む会」ではコロンビアについて新たな大統領のファン・マヌエル・サントス・カルデロン（前ウリベ大統領時代の国防大臣）の「無気力と変化の間」の記事を読みました。今回の特別講座はコロンビア人のサンドラ・モラレス・ムニョス先生をお招きして、先生の専門のコロンビア文学の展望を話していただきました。普段は各大学でスペイン語の授業を学生に行っているのみで、今回の講座のようにコロンビアとその文学について話をするのは初めてとのことでした。講座はDVDでの映像投影を使いながら、まず15世紀以降のコロンビアの歴史と社会状況の説明がありました。1499年に始めてスペイン人が上陸して以来、スペインの植民地監督府 la Real Audiencia がサンタ・フェ他に置かれていたのですが、中南米独立運動のヒーローのシモン・ボリバル（1783-1830）に指導されて1819年にコロンビア共和国となったこと。20世紀に入ってから戦争により、北部のパナマが分離独立したこと。1930年～1946年“República Liberal”の時代。1948年リベラル派の指導者 Jorge Eliecer Gaitán が暗殺されてから社会に大きな変革が生まれたこと。ゲリラ勢力の支配する1960年代。70年代以降のマリファナの取引はアメリカ合衆国及びラテンアメリカ各国を巻き込み世界的な違法取引に規模を拡大している現状の説明がありました。コロンビアではコカの栽培は合法的なものであり、コカは元来高地に生活するインディオ達が体の為に必要とするものであったが、その生成物のコカインは麻薬としてその取引は違法として世界的問題となっているわけです。



さて、コロンビアの文学・散文の展望については、本来は詩（ポエシア）が民族的には最初であったことを踏まえての説明でした。17世紀以降の代表小説作品6点を紹介されました。20世紀半ばの散文は、社会の状況“la violencia política”を反映して文学のテーマとしては暴力小説“la novela de la violencia”と呼ばれましたが、60年代にはこの傾向を離れやがて1967年のガルシア・マルケスの「百年の孤独」が登場します。以降、国民文学・ラテンアメリカ文学に分かれブームの時代が訪れます。コロンビアでは様々な傾向の作家が登場してきており、Jorge Franco, Evelio Rosero, Laura Restrepo, William Ospina, Hector Abad Faciolince 等ですが最後に紹介した Hector Faciolince の“El olvido que seremos”は80～90年代の社会におけるこの世代の作家共通の要素の読み取れ作品として紹介されました。（山崎宗城）



## ● スペイン便り



オラ！今回からスペイン便りを担当させていただくピアニストの西澤安澄です。

スペイン音楽研究のためにマドリッドに約10年住みましたが、この度憧れのアンダルシア州はマルベージャに居を移すことになりました！スペインに住むきっかけとなったのが2002年ロンダへの演奏旅行、当時まだ2月というのに桜やアーモンドの花全開の美しさと人々の優しさに感激し、絶対にスペインに住むのだと強く思いました。随分後に縁あって横浜スペイン協会の会員になり、あの桜は協会の方々が日本から持っていかれたとのこと！その協会の皆さんに、つたない文章を寄せさせていただけるということで感激ひとしおです。音楽は万国共通語といいますが、本当にそう思います。そのうえスペインの音楽を研究していると言うと、本当にたくさんのスペイン人が胸襟開いてくれました。わたしのスペイン生活は一風変わっていると思いますが、そんな音楽家の日常を皆さんに紹介してまいります。どうか気長におつきあいくださいますようお願いいたします。

クリスマスの準備に忙しいマルベージャですが、日中はだいぶ暑くなりテラスで真夏の格好で気取って！カフェができます。マドリッドでは朝晩と零下まで下がり、朝起きると芝生が凍って白くなる位なので得した気分。お天気が良ければ1月1日は初日の出を見ながら初海水浴をするのだ、というツワモノもいます。本当でしょうか。

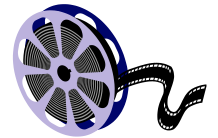


しがたい音楽家の身分では豪勢なディナーなどできないので、唯一の贅沢はカフェで朝ごはん。たいてい甘党の朝ごはんセットのカフェオレ(カフェコンレチュ)としぼりたてのオレンジジュース(これは本当に美味しい！) クロワッサン又は甘いデニッシュ。フランスやイタリアではクロワッサン類は紙ナプキンに包まれて出てきますが、スペインは絶対ナイフとフォークがサブされます。お上品に食べてください、なんてことではありません。ここはスペインです。クロワッサンにしるジャムか砂糖がたっぷりかかっている手で食べるとベトベトになってしまうからなんです。脳天にジンと来るくらい強烈な甘味ですが、不思議と慣れてしまうと、あれが無いと物足らないのです。これを給仕のお姉さん(カマレラ)と世間話をしながらいただくのです。



そうこうしているうちに11時頃にブレイクでトルティージャのピンチョをつまみに来る人たちが来たりして14時のランチタイムまでカフェは人の絶える間もありません。スペインの食べ物は味が濃く大らかで優しい。人々も同じくつつけんどんでも根は優しく、涙もろい。美味しいタパスをワインと共に友達とつまめば、人生辛いこともあるけれども天国って思います。(西澤安澄)





## ● シネマ・サロン

「ブランカニエベス」－「Blancanieves」

Pablo Berger 監督、2012 スペイン・フランス モノクロ、サイレント

1920年代のスペイン南部のある町。スペイン一の人気闘牛士の娘カルメンシータは、生まれる時に母を失い、父は六頭の牛と闘い、その角に突かれて大怪我をし寝たきりになる。策略を持って家に乗り込んできた町の元役人の継母にいじめられながら育つ。父は娘にひそかに闘牛の基本を教える。継母に雇われた男に殺されかけたカルメンシータは息を吹き替えし、小人たちに世話をされ美しい娘に成長。やがて小人たちの闘牛士一座で「白雪姫」と呼ばれ、各地で興行は大成功。父の最後の闘牛場ですばらしい技を披露し大喝采を受けていると、追いかけて来た継母に毒りんごを食べさせられる。死んでしまった彼女を小人たちが弔う。ガラスの棺に横たわるカルメンシータ。添い寝する一人の小人。彼女の右目からひとしずくの涙が落ちる。本当に死んでしまったのか？眠っているだけなのか？奇跡は起きるのか？見る人それぞれの想像力をかきたてて場面が閉じる。娘役のマカレナ・ガルシアの健気さやりりしさを際立たせていたのはモノクロ映像のせいではないか、またサイレント映画を華やかに盛り立てる明るい音楽が、見終わった後に、人々の表情や服装、特に闘牛の場面をカラフルな映像としてよみがえらせてくれるような気がしました。



(横浜ジャック&ベティーで3月1日より上映予定)

(松本益代)

## \*\*\* 新しい横浜スペイン協会ホームページのご紹介 \*\*\*

前回のAIYES通信(第68号)でお知らせしました新しい横浜スペイン協会ホームページ(HP)は、遅れておりましたがようやくリリースする運びとなりました。

新しいホームページでは、トップページ(写真)からスペイン語教室やスペインサロンなどご希望のページの写真をクリック頂くと、直接アクセス出来るようになります。

さらに、スペイン情報や新しいイベント記事も充実してお届けします。美しいスペインの街並みの写真も堪能いただけるのではないのでしょうか。(2014年3月初旬予定)

リニューアルしたホームページに、どうぞお気軽にアクセスください。

<http://www.yokohama-spain.jp/> または、”横浜スペイン協会” で検索ください。



## 《 2014 年定時総会開催のお知らせ 》

2014 年度の定時総会を下記の通り開催いたします。多くの会員の皆様のご出席をお願いいたします。また本年は横浜スペイン協会理事改選の年でもあり、会員の皆様から推薦された理事候補は役員選考委員会において推挙された後、本人に理事受諾の意思を確認後、理事会において3分の2以上の理事の承認を得て選出され、総会において新理事の紹介も行われます。2014 年度も従前にも増して事業活動を展開し会員の皆様に喜んでいただける横浜スペイン協会でありたいと思います。

- 記 -

日時：2014 年 5 月 10 日（土） 午後 1 時～2 時  
横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2（横浜駅西口 徒歩 5 分）  
会場：かながわ県民サポートセンター1501 号室

- ① 2013 年度事業報告及び一般会計報告
- ② 2014 年度事業計画及び一般会計予算案
- ③ 役員改選
- ④ その他

### \*\*\* 事務局からのお知らせ \*\*\*

2014 年幕開けの主要協会行事の一つである新年親睦パーティーは2月8日に無事終わることが出来ました。次の主要行事は5月に開催する定時総会です。今年は理事改選の年でもあり、ぜひ皆様の積極的なご出席をお待ちしております。

賛助会員	住 所	電話番号	会員サービス内容
レストランオーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア 1 杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア 1 杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア 1 杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒（東京）徒歩 5 分	03-5420-5328	サングリア 1 杯無料
(有) フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用割引
日西商事（うさぎのいる島）	東京都港区台場2-2-1 サ・クルズ・ダイ 1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

<編集後記> 本号から、スペイン マルベージャ在住ピアニストであり、当会員の西澤安澄さんの“スペイン便り”の連載が始まりました。観光では知ることのできないスペインをお届けいたします。ご期待下さい。（澤田真人）

編集委員 石井加奈弘 桜田ゆみ 澤田真人 下山利明 千葉博子 福長昭代 真木幸子 山崎宗城

\* 投稿寄稿宛先 〒247-0056 鎌倉市大船 1709-18  
横浜スペイン協会会報係 e-mail: aiyes\_press@yokohama-spain.jp  
横浜スペイン協会 URL http://www.yokohama-spain.jp

次回原稿締切は  
**5月10日(月)です。**  
投稿は800字以内、写真をお付け下さい